
ゴッドイーター ” もしもNGシーンがあったら ”

咲良

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴッドイーター” もしもNGシーンがあったら”

【Nコード】

N71630

【作者名】

咲良

【あらすじ】

ゴッドイーターに、もしもNGシーンがあったらどうなるか？
作者なりに作ってみたNGシーン集です。

ネタ系が苦手、または嫌いな方にはお勧めできません

（前書き）

初投稿です。

ゴッドイーターをアンソロ風にイメージしてみた結果、NGシーン
ネタになりました。

下手ではありますが、どうか読んでやって下さい（苦笑）

冒頭で明かされる真実

サクヤ

「今日の配給、何だっけ？」

リンドウ

「ああ確か…新種のジャイアントトウモロコシだ」

サクヤ

「えー？またあのデカイトウモロコシ？あれ食べにくいんだよね…」

リンドウ

「このご時世だ、食べるだけでも感謝しとけ」

サクヤ

「ねえソーマ、何かと交換しない？」

ソーマ

「こ、断る！んなモンいらねえ！」

サクヤ

「つれないわねえ…」

ソーマ

（あんなモン死んでも食いたくねえ…。俺はトウモロコシが嫌いな

んだよ…!!」

ツバキさんは以外とグルメだった

ツバキ

「ここが今日からお前達が世話になるフェンリル極東支部、通称・アナグラだ。メディカルチェックが始まるまで、施設を見回るように」

主人公&コウタ

「了解！」

ツバキ

「特に、各フロアに設置されている自販機は念入りにチェックするように、こまめにな」

コウタ

「…はい？」

ツバキ

「今自販機で販売中の冷やしカレードリンクは人気商品だ。品揃えが変わるまでに飲んでおくことを奨める。他にもハムカツジュースやデミグラスソース茶もオススメだ。今後も新商品が追加される予定で、更なる美食が期待できる予感が…（云々）」

主人公

（なあ、ツバキさんて…グルメだな）

コウタ

（そ、そうだね…。ていうか、デミグラスソース茶って何なんだ……？）

メディカルチェックにて

サカキ博士

「よし、それじゃあそのベッドに横になって」

主人公

「は、はい」

サカキ博士

「なに、心配する事はないよ。次に目が覚めた時には、自分の部屋だ。ゆっくりお休み」

メディカルチェック終了後

ツバキ

「メディカルチェックは済んだようだな」

主人公

「はい」

ツバキ

「…どこか身体に違和感はないか？痛む箇所もないか？」

主人公

「別にないですけど…、どうかしたんですか？」

ツバキ

「いや…サカキ博士の事だからな、『新型の構造にも興味あるんだよねえ』などと言って、臓器等を観察されたかと思ってな…」

主人公

「……………」

ツバキ

「…コウタにも聞いておいてくれ。念のためにな…」

主人公

「…了解……………」

その後、メディカルチェックを二度と受けたくないと思う二人であった。

初任務にて

リンドウ

「おい新入り、実地演習を始めろぞ」

主人公

「はい」

リンドウ

「命令は三つ」

主人公

「…はい」

リンドウ

「死ぬな、死にそうになったら逃げろ、そこで隠れろ、運が良ければ不意をついてぶっ殺せ」

主人公

「了解しまさ」

リンドウ

「ぶっ殺したら回復しろ、援護要請をしてそこから動くな、助けが来たらすぐ帰還しろ、助けが来れないなら敵に見つからないよう気配を消せ」

主人公

「あ、あの…リンドウさん？」

リンドウ

「動いたら終わりだと覚えとけ、何があっても死を認めるな、仲間を信じろ、大切なのは愛と勇気、そして…」

20分後

リンドウ

「…って、いつの間にか200個に増えてるな。ま、とにかく生き延びろ。それさえ守れば後は万事どうにでも…って、どうした新入り？」

主人公

「……いえ、何でもないです…」

初任務開始前から、どつと疲れた主人公であった。

サクヤとの初任務にて

サクヤ

「遠距離の神機使いとペアを組む場合、これが基本戦術だから覚えておいて」

主人公

「はい」

サクヤ

「うん、素直でよろしい！さあ、始めるわよ！」

任務終了後

主人公

「はぁ…」

コウタ

「何かあったの？」

主人公

「いや、何ていうかさ…。新型なのに、サクヤさんに背中預けっぱなしの俺って、何なんだろうって思ってたさ…」

コウタ

（うわぁ…）

何気に同感するコウタであった。

ソーマとの初任務にて

エリック

「あ、キミが噂の新人クンかい？僕はエリック。キミもせいぜい僕を見習って、人類の為華麗に（以下略）」

ソーマ

「エリック！上だ！！」

エリック

「え？う、うわあああああ！！！？？」

ソーマ

「ボーツとするな！！」

その後

主人公

「なあ、教えてくれてもいいだろ？」

ソーマ

「黙れ」

主人公

「死んだ仲間の名前くらい覚えてやってもいいだろう？」

ソーマ

「俺には関係ない……」

主人公

「はつきりしたらどうだ！！あいつはエリックっていう外人なのか！？それとも上田っていう日本人なのか！？」

ソーマ

「うるせえ！！俺は”上だ”と警告しただけだっつってんだろぅが！！苗字なんか知るか！！！！！！」

翌日、ソーマが頭痛と過労で一日休んだのは言うまでもない…。

あのシーンの裏

コウタ

「行こうサクヤさん！このままじゃ、全員共倒れだよー！」

サクヤ

「イヤよ！リンドウううううー！！！！！」

コウタ達が撤退した後

リンドウ

「行ったか…」

ディアウス・ピター出現

リンドウ

「…少しは休憩させてくれよ、煙草が勿体ないぜ……」

リンドウ

（残りは二本か…。最高級の煙草……。高かったんだからよ……。！）

その後の捜索隊の調査によると、最高級煙草の吸い殻が三本発見されたらしい…。

（後書き）

初投稿初っ端からネタ作品になりましたw

いや、でも、これはこれでアリかなあ…なんて思ったり。

もし、また新たなNGが思い付いたら第二弾を出したいかなーと。

どうもありがとうございましたー！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7163o/>

ゴッドイーター” もしもNGシーンがあったら ”

2010年11月15日16時12分発行